

## 2. 津島岡大遺跡第9次調査出土動物遺存体

奈良国立文化財研究所

松井章

出土した動物遺存体は、すべて10世紀から11世紀にかけての古代の大溝から出土したものである。この大溝は、幅、約10メートル、深さ1メートル以上の大規模なもので、所々に杭を打ち込んで堰を設けて副水路や取水口に導水していた。動物遺存体は、そうした堰や取水口などの溜まりから出土したものが多く、いずれも水酸化鉄が凝着し、風化による磨耗が著しい。出土した動物遺存体は、すべて哺乳類のものであり、種名が判明したうちでは、ウシ (*Bos taurus domesticus*) の臼歯、肩甲骨、上腕骨が10点と圧倒的に多く、ニホンジカ (*Cervus nippon*) の大腿骨が1点あるのみであった。以下に取り上げられた動物遺存体の概要を記す。

- 1：ウシの右上顎第1大臼歯の破片である。かなり老齢で、頬側のエナメル高は、23ミリを測る。
- 2：ウシの臼歯の頬側の破片。残存状態でエナメル高が38ミリあり、下顎臼歯と思われる。
- 3：ウシの下顎臼歯の破片。永久歯がまだ放出していない段階で、エナメル質の磨滅が見られない。
- 4：不明四肢骨。ウシまたはウマに相当する骨の大きさ、厚さである。明瞭な刃物による解体痕が残る。人為的に断ち切られた可能性が高い。
- 5：ウシの右、肩甲骨の遠位端。かなり破損するが、人為的かどうかは不明である。
- 6：ウシの左、中足骨の近位と遠位。同一個体のもと考えて矛盾はない。表面の風化が著しく、計測は不可能である。
- 8：ウシの左、上腕骨の体部である。遠位部は鋭い刃物で一撃の下に斜めに裁断されている。
- 9：不明骨片。
- 10：ウシの左、上顎第3大臼歯。老齢である。エナメル高が頬側で18ミリ、舌側でも18ミリを測る。
- 11：不明四肢骨：ウシ、ウマに相当する大きさ、厚みである。
- 12：ニホンジカの右の大腿骨。ほぼ完形であるが、骨頭部を欠損する。成獣で骨端部の化骨化は終了している。遠位端最大幅 (Bd) は、48ミリをはかり、大きさからメスのものと思われる。明瞭な解体痕は無い。

13：ウシの左、脛骨の遠位部である。遠位端最大幅は63.1ミリを測る。化石化は終了しており成獣である。明瞭な解体痕は見られない。

14：ウシの右側、上顎大白歯の破片。頰側のエナメル高は、15ミリを測り、老齢である。

15：ウシの下顎白歯の破片。左右不明である。

第9次調査で検出した古代の大溝から15点の動物遺存体が出土した。すべて、地下水に含まれる水酸化鉄が凝着しており、風化、水浸状態からくる磨耗を受けている。しかし、出土した骨以外に溝中に捨てられたが埋没の過程で腐朽し、残存しなかったものが存在する可能性も考えられるが、出土した骨のなかに、極端に保存度の悪いものは見られないことから、元来、溝中に骨が投棄されれば保存されていたと思われる。特に、No.12のニホンジカの大腿骨は、表面が剝離している他は残りがよく、他の骨も、この溝中にあれば同様に保存される環境にあったことは間違いない。出土量の少なさは、元来この場所に投棄された骨の少なさを示しているだろう。したがって、これらの骨は、この場所で投棄されたか、あるいは、上流で一括して捨てられたものが軟部組織が腐って流されて、この堰の手前の深みやその付近に堆積した可能性が高い。これまで筆者が扱ってきた畿内から瀬戸内沿岸の奈良、平安時代の出土資料では、ウシに比べるとウマが圧倒的に多かったが、今回の資料ではウマが無く、ウシが大部分を占めた。近世の日本列島では、西日本ではウシが、東日本ではウマが多く農作業に使われてきたと言われてきたが、今回の出土資料はそれを裏付けるものであろうか。これまでの鹿田遺跡の発掘では、第3、4次調査において平安時代の溝（河道一1）から、ウマ、イヌ、ニホンジカなどの動物遺存体が出土し、第5次調査では鎌倉時代の井戸の廃棄に伴うウシの頭蓋骨を埋納した遺構を報告した<sup>(1)</sup>。第3、4次調査で出土したニホンジカの鹿角には、明確な切断痕があったが、今回の大腿骨には、人為的な加工痕が見られなかった。今回の報告例でも、鹿田遺跡における平安時代から鎌倉時代にかけての人々の動物利用に関する問題に大きな手がかりを与えた。

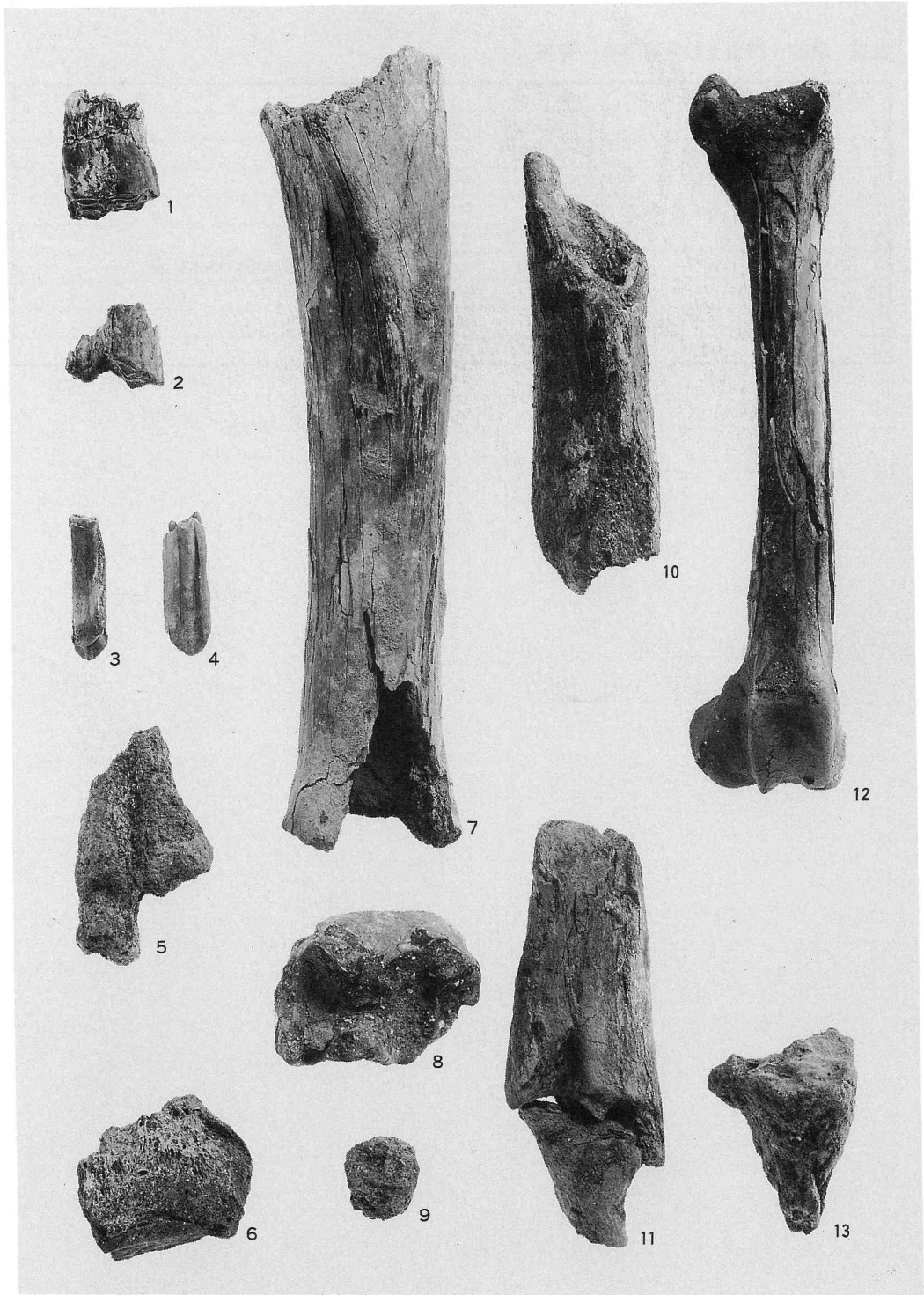
## 註

1 松井章1990「鹿田遺跡（Ⅲ、Ⅳ次調査地点）出土の動物遺存体一」『岡山大学構内遺跡調査研究報告』第4冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター pp. 107—110。

松井章1993「鹿田遺跡第5次調査（医学部付属病院棟新営に伴う発掘調査）出土のウシ」『鹿田遺跡3』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター pp. 115—118。

表22 溝22～29出土動物遺存体一覧表

図版番号	遺構	層位	地区	備考
1	溝23	底	1・2区畦間	ウシ：右 上 第1後臼歯
2	溝22	下層～底	3・4区畦間	ウシ：上臼歯
3	溝22	下層～底	2区	ウシ：臼歯破片 上下不明
4	溝22	最下層～底	2区	ウシ：臼歯
5・9・13	溝23		分流1・2区	ウシ：中手骨 or 中足骨 左
7・8	溝23	底	2区北斜面	ウシ：頸骨 左 遠位、遠位端最大幅63.1mm
10	溝23		1・2区	ウシ：上腕骨 左 体部
11	溝22	たまり状遺構		不明：四肢骨
12	溝23	1区		シカ：大腿骨 右 完形



図版8 動物遺存体 1-ウシ臼歯(溝23) 2~4-ウシ臼歯(溝22) 5・9・13-ウシ中足骨(溝23) 6-ウシ肩甲骨(溝23) 7・8-ウシ脛骨(溝23・25) 10-ウシ上腕骨(溝23) 11-ウシ・ウマ不明四肢骨(溝22) 12-ニホンシカ(溝23)